2013年度研究助成 研究成果報告書（ＨＰ掲載用）

研究課題名：食物アレルギーのある子どもをもつ母親の育児ストレスと抑うつ

所属大学・機関名：駒沢女子大学看護学部看護学科

氏名：弓気田　美香

【研究要旨】（研究要旨を200～300文字程度でご記入ください。）

食物アレルギーの子ども(以下FA)の母親の育児ストレスと抑うつを食物アレルギーではない子ども(非FA)の母親と比較し、さらに6か月後、12か月後と縦断的に同様の調査を行った。その結果、FA群の母親は、『社会的孤立ストレス』が高く、子どもが成長するに伴いさらに高まることが示された。また、ソーシャルサポートも十分に得られていない状態であることが明らかとなり、早期に専門家による支援が求められていると考えられた。

【研究目的】

本研究は、食物アレルギーの子どもを持つ母親の育児ストレスが食物除去やその他の背景によりどのような影響を受けているのかを明らかにすることを目的とした質問紙による調査を行った。

食物アレルギーは慢性のアレルギー疾患であり、有症率は乳幼児が10%、3歳児5%、とされている。乳幼児期のアナフィラキシーなどの即時型アレルギーの主な原因は、鶏卵、乳製品、小麦などの日常的に摂取している食品であり、診断されると食物除去が必要となる。食物除去は家庭での調理の材料、調理器具、食器などの管理が必要となり、外食や既成の食品を使用することが困難となる。そのため、主たる養育者である母親はストレスが高まることが予測される。

【研究方法】

食物アレルギーの子どもを育てる母親248名と食物アレルギーをもたない子どもを育てる母親250名を対象とした質問紙調査を行った。質問紙には育児ストレスの尺度として、奈良間らが日本語版を作成したPSI育児ストレスインデックスと付属のソーシャルサポートスケール、および抑うつ状態を把握するため、藤澤らが日本語版を作成したQIDS-J(簡易抑うつ症状尺度(Quick Inventory of Depressive Symptomatology)を使用した。

【研究結果・考察】

食物アレルギーの子どもを育てる母親と、食物アレルギーをもたない子どもを育てる母親の育児ストレスの差異は、「社会的孤立」と「両親親戚のサポート」「近所の人のサポート」であった。食物アレルギーの子どもを育てる母親の育児ストレスには、食物アレルギーによるストレスと母親の抑うつ、ソーシャルサポートが影響を及ぼしている可能性があることが明らかとなった。